



株主通信

第212期(中間期) 2019年4月1日~2019年9月30日

[証券コード:3106]

CONTENTS

株主の皆様へ	1
当社グループの事業概況	3
トピックス	5
ESGに関する取組み	7
財務情報	8
株式情報・会社情報	9
企業広告	10
株主メモ	巻末

株主の皆様へ



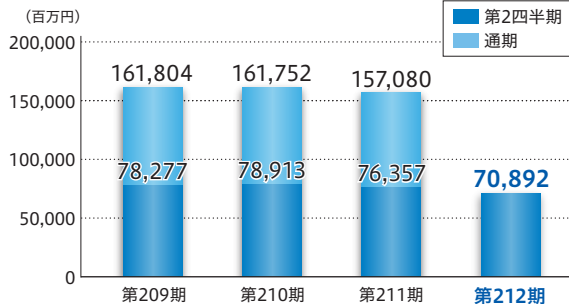
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、当社グループの第212期第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）の概況につきまして、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、終息が見えない米中貿易摩擦、日韓での輸出規制強化、イギリスのEU離脱問題、ヨーロッパ経済の低迷などの影響により、景気の回復基調に鈍化が見られました。

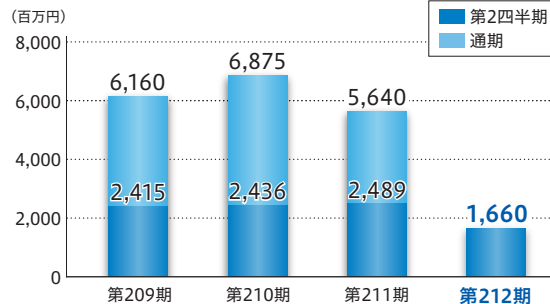
このような環境下にあって当社グループは、2019年4月よりスタートした中期経営計画「Creation'21」の基本方針である「イノベーションによる収益拡大と企業価値の向上」のもと、高付加価値・高収益ビジネスの拡大や、マーケット志向型事業への転換、新規事業創出などに注力しました。

連結業績ハイライト

売上高



営業利益



当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は708億円(前年同期比7.2%減)、営業利益は16億6千万円(同33.3%減)、経常利益は24億5千万円(同5.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は22億3千万円(同2.0%減)となりました。

なお、当事業年度の間配当につきましては、前事業年度と同様見送らせていただくことといたしました。

今後のわが国の経済情勢につきましては、米中貿易摩擦の激化、原油価格の動向や本年10月の消費税率引上げの影響などにより、景気の先行きの不透明感は一層増すものと思われまます。

このような経営環境のもと、当社グループは、中期経営計画「Creation'21」の基本方針に沿い、高付加価値・高収益ビジネスの拡大や、マーケット志向型事業への転換、新規事業創出などに引き続き注力し、

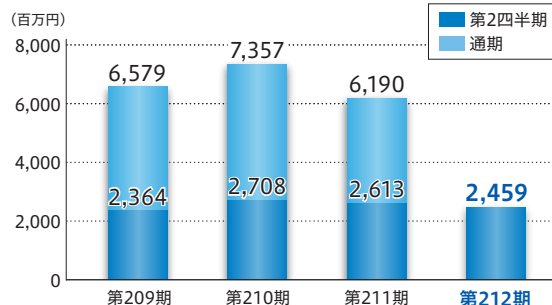
「イノベーションと高収益を生み出す強い企業グループ」を目指すべき姿と定めた「長期ビジョン2030」の実現に努めてまいります。また、引き続きコーポレートガバナンス体制の充実を図るとともに、企業倫理や法令遵守の徹底、SDGs(持続可能な開発目標)への取組みなどCSR活動を推進し、持続的な成長および中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

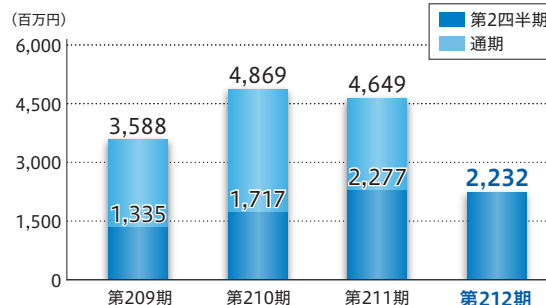
2019年11月

取締役社長 藤田 晴哉

経常利益

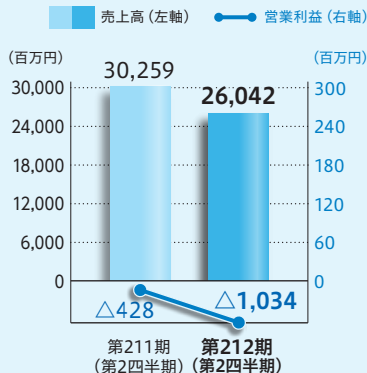
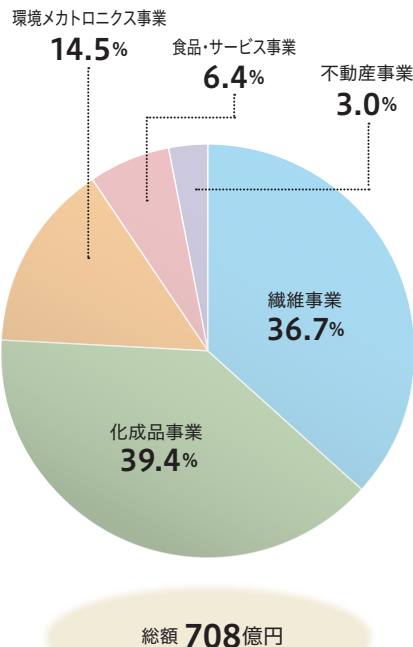


親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



当社グループの事業概況

事業セグメント別売上高構成比率

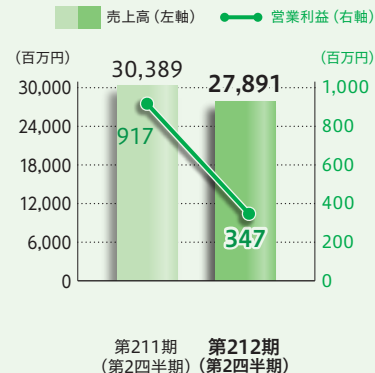


繊維事業

原系分野は、新商品の販売が好調に推移したことなどで、増収となりました。ユニフォーム分野は、主力であります建設業、製造業向けが堅調に推移したことで前年同期並みとなりました。カジュアル分野は、国内衣料品販売の低迷に加え、輸出も低調で、減収となりました。海外子会社は、タイや中国の受注が減少したことにより、減収となりました。この結果、売上高は260億円(前年同期比13.9%減)、営業損失は10億3千万円(前年同期は営業損失4億2千万円)となりました。

繊維事業

- 綿、合繊、その他素材の繊維製品(糸、織物、編物および二次製品)の製造・販売
- 綿、合繊織編物の染色整理加工

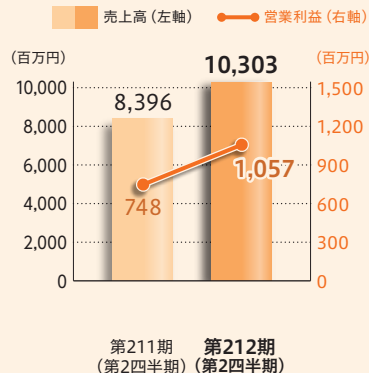


化成品事業

自動車分野は、フィルター向け不織布は順調に推移しましたが、内装材向け軟質ウレタンフォームは国内や中国子会社の販売が低調で、減収となりました。機能樹脂分野は、半導体製造向け樹脂加工品や海外向けディスプレイ用フィルムが低調で、減収となりました。住宅建材分野は、断熱材が低調で、減収となりました。この結果、売上高は278億円(前年同期比8.2%減)、営業利益は3億4千万円(同62.1%減)となりました。

化成品事業

- ポリウレタンフォーム、合成木材、無機建材、機能性フィルム、精密ろ過関連製品、高性能エンブラ製品、不織布および補強ネットの製造・加工・販売



環境メカトロニクス事業

エレクトロニクス分野は、膜厚計が順調に推移し、また子会社でも半導体洗浄関連装置が好調で、増収となりました。エンジニアリング分野は、徳島バイオマス発電所の売電事業が堅調に推移し、プラント関係の工事も順調で、増収となりました。

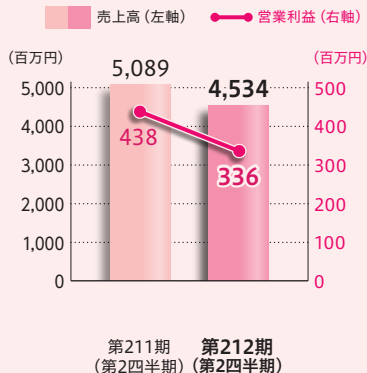
バイオメディカル分野は、遺伝子受託解析サービスや細胞製品が堅調で、増収となりました。

工作機械分野は、国内販売が順調に推移し、また中国向け輸出の増加もあり、増収となりました。

この結果、売上高は103億円(前年同期比22.7%増)、営業利益は10億5千万円(同41.3%増)となりました。

環境メカトロニクス事業

- エレクトロニクス関連製品の製造・販売・保守
- 環境・エネルギー関連の各種プラント等の設計・製作・施工・販売、バイオマス発電事業
- バイオ関連製品の製造・販売
- 工作機械等の製造・販売



食品・サービス事業

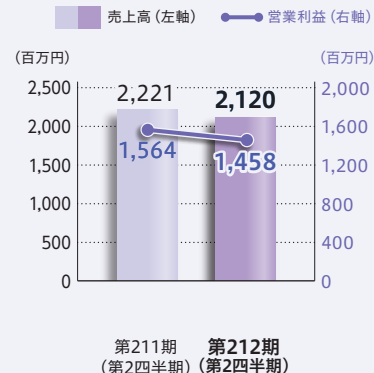
食品分野は、シリアル向けフリーズドライフルーツや即席スープ具材および成型スープの販売が減少したことにより、減収となりました。

ホテル分野は、物販事業の一部撤退の影響もありましたが、新宴会場オープンの効果により、増収となりました。

この結果、売上高は45億円(前年同期比10.9%減)、営業利益は3億3千万円(同23.2%減)となりました。

食品・サービス事業

- フリーズドライ食品の製造・販売
- ホテル、自動車教習所等の経営ほか



不動産事業

賃貸事業の推進に注力しましたが、一部物件の契約見直しなどもあり、売上高は21億円(前年同期比4.6%減)、営業利益は14億5千万円(同6.8%減)となりました。

不動産事業

- 不動産の賃貸

ホームページのご案内

>>> <https://www.kurabo.co.jp>

当社ホームページでは、会社案内やニュースリリースのほか、IR情報をお届けするため、「株主・投資家情報」のサイトを開設しています。

当社の開示資料を閲覧できる「IR資料室」、IR活動の日程をまとめた「IRカレンダー」など、株主の皆様のお役に立つ情報を提供しています。



トピックス

繊維 事業部

サステナブル社会に つながる取り組み “L∞PLUS”を推進

繊維事業部は、資源の有効活用をテーマに、衣服を縫製する際に発生する裁断屑をワタに戻した後、その価値を高めた新たな繊維製品や紙製品などにアップサイクル※する取り組み“L∞PLUS(ループラス)”を2017年から開始し、アパレルなどとの協業を進めています。

このたび、新たに(株)エドウィンが、この取り組みに加わり、ジーンズの裁断屑から作ったパンツ、Tシャツなどのアイテムを2020年春から同社の「CORE COTTON RECYCLE」シリーズとして販売する予定です。

今後も、“L∞PLUS”のパートナー企業を増やすことで、サステナブル社会の実現を目指してまいります。

※アップサイクル：廃棄物をそのまま再利用するのではなく、価値を高めた新しい材料や製品へと変換し、活用する考え方のこと。



L∞PLUS製品



L∞PLUSを使用した紙製品

化成品 事業部

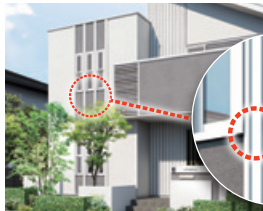
多彩な組み合わせができる窯業系 外装化粧材“クランセリートmini”を 販売開始

化成品事業部は、戸建住宅用の窯業系外装化粧材“クランセリートmini”を本年11月に販売開始しました。

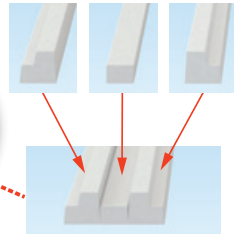
“クランセリートmini”は、従来の窯業系押出成形品よりも小型サイズで細部のディテールにこだわり、凹凸形状が生む立体感や太陽光による陰影など、小さいながらも住宅の外観を繊細かつ上品に演出できるのが特長です。ラインアップは5種類で、単体での使用はもちろん、製品同士の

組み合わせや、石やタイル、木材などの異素材を組み合わせても使用できるため、様々なアレンジを楽しむことができます。住宅のトレンドとなっているシンプルモダンな外観デザインにも調和しながら、外装材としてもオリジナリティーのある表現が可能となりました。

クランセリートmini



クランセリートmini使用イメージ



環境
メカトロニクス
事業部

[エレクトロニクス分野]

ロボット用高速3Dビジョン センサーを開発： 配線工程の自動化に貢献

環境メカトロニクス事業部は、ロボットがケーブルを認識するための高速3次元(3D)ビジョンセンサー“クラセンス”を開発しました。

自動化が進む工場内においても、「ケーブルを掴んで差し込む」といった配線工程は自動化が難しく人手に頼ることが多いという課題があります。“クラセンス”は、高速画像処理技術を生かしたロボットの「目」として、布やケーブルといった柔軟物の形状・色などを高速・精確に捉え、各種作業を行う上で最適な位置をロボットが掴まえることを可能にします。“クラセンス”を用いることにより、自動車や

電子機器の製造工程において、基板同士をつなぐケーブルのコネクターを差し込む作業などがロボットに置き換えら



クラセンス使用イメージ

れることで、製造現場の自動化や省人化の推進に貢献します。2020年春の発売に向けて提案を始めており、自動車や電子機器の工場などで導入の検討が進んでいます。



クラセンス

関係会社
クラボウプラント
システム株

大手化粧品会社の 新工場生産設備工事を 受注



工場外観

工場内設備

クラボウプラントシステム(株)は、化粧品をはじめ、医薬、化学、食品など様々な業界において、長年にわたる数多くの施工実績と、蓄積したノウハウが評価されており、(株)ナリス化粧品の新工場(兵庫県三木市、同社の兵庫工場内)の生産設備工事を受注し、本年5月に引き渡しを行いました。今回受注した新工場は、国内外からの引き合いが好調なシャンプーや化粧水などの増産に対応するもので、原材料の受け入れからの生産工程全般(個装・箱詰めを除く)を同社が受注し、各種装置などの仕様やレイアウト設計をはじめ、原料の送液設備や製造装置の設置工事を行いました。

クラボウプラントシステム(株)では、今後も様々な生産現場の自動化・省力化を実現するために、積極的な受注活動を推進してまいります。

ESGに関する取組み

ダイバーシティ&インクルージョンを推進

クラボウは、社員が個々の能力を最大限に発揮し、健康で生き生きと働ける職場作りのため、ダイバーシティ&インクルージョン(以下、D&I)を重要な経営戦略の一つと位置づけ、本年9月からD&Iを推進する取り組みを始めました。今後、多様な人材の雇用、人事制度の見直し、社内研修などを行っていきます。

クラボウは、D&I推進を通じて、全ての社員が活躍・成長できる職場環境・企業風土を築き、個性・強みの発揮によるイノベーションと新しい価値を創造するとともに、この取り組みをクラボウグループの持続的成長の原動力とし、より良い未来社会作りに貢献してまいります。

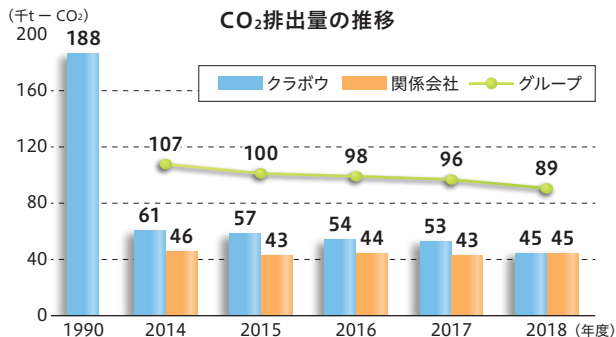


ダイバーシティ&インクルージョンとは

- ダイバーシティ(多様性)
多様な人材を活用する考え方
- インクルージョン(受容)
社員が互いに違いを受け入れ、認め、生かす合う考え方

地球温暖化防止

クラボウグループは、サステナブル社会の実現を目指し、地球温暖化ガス(CO₂)排出量の削減に取り組んでいます。その結果、CO₂の排出量は年々減少し、クラボウ単体では、1990年度と比較して約76%の削減を実現しました。



紺綬褒章(褒状)を受章

クラボウグループは、「平成30年7月豪雨」の被災地支援として倉敷市に義援金などを寄付したことにより、紺綬褒章を受章しました。紺綬褒章は、公益のために私財を寄付した個人や法人などに対して、天皇陛下から授与される褒章の一つです。本年10月、倉敷市役所にて伊東倉敷市長より褒状の伝達が行われました。



左は倉敷市 伊東市長、
右はクラボウ 本田取締役執行役員

財務情報

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2019年9月30日)	科目	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部			負債の部		
流動資産	82,156	77,233	流動負債	51,423	48,289
固定資産	94,195	95,271	固定負債	28,958	28,864
有形固定資産	52,128	52,511	負債合計	80,381	77,153
無形固定資産	985	1,151	純資産の部		
投資その他の資産	41,081	41,608	株主資本	90,107	89,673
資産合計	176,352	172,504	その他の包括利益累計額	2,391	2,426
			非支配株主持分	3,470	3,250
			純資産合計	95,970	95,350
			負債純資産合計	176,352	172,504

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 (2018年4月1日～ 2018年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2019年4月1日～ 2019年9月30日)
売上高	76,357	70,892
売上原価	63,313	58,701
売上総利益	13,044	12,191
販売費及び一般管理費	10,554	10,531
営業利益	2,489	1,660
営業外収益	774	1,162
営業外費用	649	362
経常利益	2,613	2,459
特別利益	649	750
特別損失	20	174
税金等調整前四半期純利益	3,243	3,035
法人税等	953	991
四半期純利益	2,289	2,043
非支配株主に帰属する四半期純利益 又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	11	△188
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,277	2,232

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 (2018年4月1日～ 2018年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2019年4月1日～ 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,254	4,230
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,199	△3,025
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,140	△2,290
現金及び現金同等物に係る換算差額	△157	△19
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,241	△1,105
現金及び現金同等物の期首残高	20,423	19,169
非連結子会社との合併に伴う現金 及び現金同等物の増加額	104	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,286	18,064

株式情報・会社情報

当社の株式に関する事項 (2019年9月30日現在)

■発行可能株式総数	97,701千株
■発行済株式の総数	23,156千株
■株主数	14,097名
■大株主	

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社三井住友銀行	1,018	4.87
株式会社みずほ銀行	1,018	4.87
日本生命保険相互会社	920	4.40
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	763	3.65
株式会社中国銀行	726	3.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	630	3.01
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	615	2.94
GOVERNMENT OF NORWAY	492	2.35
三井住友信託銀行株式会社	412	1.97
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	394	1.88

(注) ①当社は、自己株式2,265千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
②持株比率は自己株式を控除して計算しております。

当社グループの概要 (2019年9月30日現在)

当社

■創立 1888年3月9日 ■本店 岡山県倉敷市本町7番1号

■主要な事業所

区分	名称	所在地	
営業所 および 研究所	大阪本社	大阪市中央区	
	東京支社	東京都中央区	
	技術研究所	大阪府寝屋川市	
工場	繊維	丸亀工場	香川県丸亀市
		安城工場	愛知県安城市
		徳島工場	徳島県阿南市
	化成品	寝屋川工場	大阪府寝屋川市
		裾野工場	静岡県裾野市
		群馬工場	群馬県伊勢崎市
		鴨方工場	岡山県浅口市
三重工場	三重県津市		
熊本事業所	熊本県菊池市		

当社グループの従業員の状況

従業員数(前連結会計年度末比増減)(人) 4,486(△45)

(注) 従業員数は就業人員であり、上記のほか、臨時社員・パートタイマー1,007人がおります。

当社の重要な子会社の状況

区分	会社名
国内	倉敷機械(株)
	日本ジフィー食品(株)
	(株)クラボウインターナショナル
	倉敷繊維加工(株)
	東名化成(株)
	シーダム(株)
海外	(株)倉敷アイビースクエア
	クラシキド・ブラジル・テキスタイル(有)
	タイ・クラボウ(株)
	(株)クラボウ・マングアル・テキスタイル
	広州倉敷化工製品有限公司
広州倉福塑料有限公司	

(注) 上記記載の重要な子会社12社を含め、当第2四半期の連結子会社は26社、持分法適用会社は2社であります。

当社の取締役(2019年9月30日現在)

代表取締役 取締役社長	藤田 晴哉	取締役 執行役員	川野 憲志
代表取締役 常務執行役員	北 畠 篤	取締役 常勤監査等委員	岡田 治
代表取締役 常務執行役員	馬場 紀生	社外取締役 監査等委員	茂木 鉄平
取締役 執行役員	本田 勝英	社外取締役 監査等委員	新川 大祐
取締役 執行役員	稲岡 進	社外取締役 監査等委員	西村 元秀
取締役 執行役員	藤井 裕詞	社外取締役 監査等委員	谷澤 実佐子

(注) 社外取締役(監査等委員)茂木鉄平、新川大祐、西村元秀および谷澤実佐子の4氏は、いずれも当社が定める「社外取締役の独立性に関する基準」の要件を満たしており、また東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員であります。

当社の執行役員(2019年9月30日現在)

専務執行役員	佐野 高司	執行役員	平田 政弘
常務執行役員	八木 克真	執行役員	中川 眞豪
常務執行役員	西澤 厚彦	執行役員	松井 一雄
執行役員	中村 潔	執行役員	西垣 伸二
執行役員	相徳 朗人		

面白いことやってやろう。 クラボウ

多量血液対応

独自の多孔質素材

100μmの極薄フィルター

フィルター法 DNA・RNA抽出装置

バーコードリーダーで一元管理

全自動DNA抽出装置

環境メカトロニクス事業部
バイオメディカル部

張 玲

詳しい
エピソードを
特設WEBサイト
で公開中！



「ライフサイエンスの発展に貢献するクラボウ人」篇

KURABO

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日
 - (1)定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日
 - (2)中間配当金 毎年9月30日
- 公告の方法
電子公告の方法により行います。
公告掲載URL <https://www.kurabo.co.jp>
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777 (通話料無料)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。